

東京師範學校編輯  
學校管理法

全

衣箱	大帳	圖書
學 校	縣 中	滋 賀

月	購	書	種	類
日	號	號	號	號
		374	536	4021

彥根中  
學校印

學校管理法

第一卷

第一章 學校管理の意義

第一節 學校管理の目的

第一條 學校管理の目的は、教育の効果を高め、

生徒の健全な成長を促進することにある。

第二條 學校管理は、教育の計画、実施、評価を

學校  
管理  
法

新編國史



学校管理法

第一章

編成ノ目的及定義

(一) 一人ノ生徒ヲ教授スルト多ク、生徒ヲ教授スルトノ別

(二) 定義、總生徒ノ便利ヲ謀リ、各生徒ヲ教授スル方法ヲ設ケテ、

成ト云フ

(三) 編成ト教授ノ關係

甲ノ組ニ行届キ、丙丁ノ組ニ及バヌ等、病

(四) 編成ト課外ノ關係

(五) 編成ニ屬スル諸課

甲) 諸種ノ学校編成法

乙) 校具整置法

丙) 分級法

丁) 課程法

戊) 校簿

己) 器具

甲) 諸種ノ学校編成

一) 助教ヲ学校ノ編成

二) 方法ニ時ニ級ヲ教ヘ他級ニ相当ノ学課(甲級算術

乙級ニ習字丙級ニ讀書)或ハ復習下詠ノ如キ事業ヲ

授ケ傍ラ之ヲ監督ス

② 得業

一) 費用ヲ減スル

二) 教授及購方金人ノ手ニ在ルヲ以テ良善ノ成

績ヲ得ベシ

三) 生徒ノ誘方ニ付キ種々ノ相成ヲ設ケ嚴之ヲ

四) 實行ニ至ルヲ得ハ是トモ良法ト謂フベカラズ

五) 二級ノ授業中他級ノ為メニ屢教授ヲ止メ得ズ

故ニ全クカヲ尽ス能ハズ

第三 教員ニ當リ相當ノ專業ニ授クニテ甚難シ故ニ止テ

得入ニテ授業時同ク感編入ルニ至ル

結論 此方ハ只狭小ナル学校ニノミ行フヲ得ベキモノトス

其学校ナリカ又ハ資金充足ナレバ他ノ方法ヲ用ル

可善トス

四 助教ナル学校ノ編成

一 種別 助教ナル学校

二 授業生ナル学校

助手ナル学校

助教員及助手ナル学校

三 助教員ナル学校ノ編成

四 方法 権リ及判決カラ有ル教師一名アリテ学校ヲ総

理シ助教員數名アリテ各級生徒ヲ教授ス

四 受授法 其法ニアリハ一教員常ニ一定ノ級ヲ受持テ其

一定ノ學課ヲ受持ツ甲ハ幼年生徒ニ適シ乙ハ

壯年生徒ニ適ス

五 得失

方法固然スル所ナド云ハ只費額大ナル以テ

常小學校ノ及フ巡ミヤラズ高シキノ學校及最上ノ私立學校等ニテ之ヲ行フヲ得ベシ

目 授業者ナル學校

四 方法

上級生徒中年齢稍長ニテ字リ優等ナル者多ク教テ候テ授業者トシ各級ニ若干名ヲ附シテ授業者ヲ受持タル教師ハ各級ニ臨テ教授ノ方法指指シ且其不足ヲ補フ

授業者ハ私ニ教師ノ教授ヲ受ケ又若干報酬ヲ受クルノ持催アリ

凶 得失

授業者ハ私ニ教師ニシテ多數生徒ニ授業スルノ如キ殿タリノ如キハ其利ハ私ニ歸スルコト能ハズ其方ニ於テハ授業者ノ信實謹慎儀範ノ何カ他人生徒ノ性情ヲ感ハルニ足ル可シ

大ニ費用ヲ節減スルヲ以テ極貧ノ處ニ授業スル此方

法ニ固テ維持スルヲ得ベシ

學カ石滿ニシテ授業ニ漸ク欠キ

威權ナクシテ感化カラズ進フスル能ハズ

此ニ當リハ以テ他ノ利益ヲ償ニ足ラズ

④用法

授業生ニ受持スル学科其性質明晰瞭然  
疑問ニ起ルモノモテ得テハ之ヲ

其学科ノ級ヲ復誦、地名、及其術ノ初等

ナリ若シテ得ズヤ他ノ学課ヲ記セントスルハ授業

生中年段最モ長シテ大学秀俊ニシテ品行方正

者ヲ撰ムハレ

授業生ハ只教師ノ臨教ヲ補助スルモ其責

任ヲ承擔スル者ニアラズ故ニ教師ハ常ニ嚴密ニ

督ヲ念ニテ其業ヲ修メテ其業ヲ修メ

⑤助手及学校

①助手撰舉及用法

助手ハ身体健康品行方正性質温順シテ筆墨

十二年以上ノモノトス可シ

告布ノ期日ニ出頭シ試験官ノ前ニ於テ試験

ノ證書ヲ得ベシ

助手ノ使用年期ニ般ノ教育ノ進歩ト生徒ノ

學ヲトニ從テ定ムルハ

其年期満リノ後ハ試験ヲ經テ師範学校ニ

入ヲ得心し

一教員毎四名以上ノ助手ヲ使用スルヲ許サズ

使用中ハ教師懸為ラシテ養成スベシ

四 得失

授業生ニ比スルバ其得ル処稍多シク費用ハ之レニ  
比スルバ大ニ増加ス

四 助教及助手ナル學校

一 方法

助手三人或ハ四人ニ毎ノ助教員一人ヲ置キ高等ノ

學課ヲ受持タメ助手ニハ容易ナル學科ノモ

ヲ受持タシム

二 得失

整練ノ教員委人ニテラシメ助手ヲ以テシテ故ニ其費  
用ヲ減シ大校ノ編成ニ頗ル其旨ヲ得ルモ

三 三類事業

又助教員ノ若干ノ時間ヲ以テ助手ノ教養充ル  
カ故ニ助手ノ便益ニ亦對カラズ

四 定儀

諸學課ヲ三種ニ分美シテ授業スルヲ法カ云フ

五 分類法

第一

教訓ニ深思ヲ要スル學科即終身誦讀文法及英



学ノ理論地理及実物課等如キ一般知識培

養スル諸科

第一 規程由テ授ケ得ル学科即読書綴字等

第二 卓上ノ課業即習字國画盤上算術等

③ 実施法

第一 教場及生徒ヲ三部ニ分テ校具ニ亦之レテ從テ備具

第二 莖壇ノ学科ハ教師自ラ之レヲ受持テ莖壇ハ授業生

又ハ助手ニ受持シテ莖壇ハ即教或ハ助手ニ受持クニ然

ノ各部生徒ハ輪番ニ各莖壇教場往テ具教授ヲ受ク

④ 要件

第一 此方法ヲ行フニ教場自ラ三部ニ分テ之ラ要ス

第二 生徒ノ年齢ハ大差ナキ要ス長幼ノ差アル原此方法ニ由ル

ベカラズ

組合スルキ年齢

八年	九年	十年	十一年	十二年
----	----	----	-----	-----



シノ組ハ須又四脚ノ預備凳ヲ備ヘ置キ教  
師ヨリ教授ヲ受タル片ハ反對ノ卓ニ向フ

乙 校具整置法

一 授業生ノ学校ノ装置

長方形ノ教師ノ一隅ニ教師ノ高坐ヲ設テ教列ノ卓及凳ヲ中  
央ニ備テ各級ノ坐ヲ定メ其三方各凡六尺ノ余抱テ設テ其壁  
面黒板ヲ掲ク

生徒ハ教師ヨリ教ヲ受ルル時ハ教師ニ面シテ坐シ又授業中ヨリ  
教ヲ受ルル時々壁前ニ正立スル

二 幼年ノ学校ノ整備

長方形ノ教場ヲ横リテ布帳ヲ懸リ其中ニ卓及凳ヲ置キ  
生徒ハ側壁高ニテ坐シ前部高クノ余地ヲ設テ時々生徒  
ノ正立シテ教訓ヲ受クルニ便ス又布帳ヲ取除キ教師  
自ラ物心生徒ヲ同時ニ訓練スルヲ得ル

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

三 三英ノ事業ニ適スル整備

三英ノ事業ニ適スル整備

右帳ヲ以テ長方形ノ教場ヲ三分シ其中部ニ卓及凳ヲ備ヘ  
以テ卓上ノ事業即習字図画等ニ充テ其兩隣ニ教師自  
ラ教授ス學課ニ充テ他ニ只覽クテ備テ讀カシムルヲ

四 教具整置通則

- 第一 教師各級ヲ監督スルニ最便利ナル位置ヲ台ムベシ
- 第二 生徒ノ位置ニ其直線ニトテ平行ナル並田ニトテ又ハ方格  
ニ對シテ之間ニトテ間ヤスニ交指教員ノ目洞視スルニ極ニ宜シ
- 第三 各級充令隔高ニ錯乱ノ害ナキヲ要ス
- 第四 教具ノ整備ニ要スル教場ニ愈テ其益愈多ニ記

列ノ方法ニ依テ校庭ニ其場處ニ多人教ヲ納ルカシムルニ其  
益大ナルニキリ云フナリ

(丙) 分級法

④ 分級ノ定儀

① 目的 教授ニ便シ且進歩ヲ助ケラ多トス  
② 標準 学カ及年齢

③ 定儀 上ニ示ス處ノ目的ノ標準ニ依リ生徒ノ類別スル分

(乙) 複分法

級ト云フナリ

一 柘帳ヲ以テ長方形ノ教場ヲ三分シ其中部卓及齋ヲ備ヘ  
以テ卓上ノ事業即習字圖画等ニ充テ其兩隣ノ教師自  
ラ教授ス學課ニ充テ他ノ空處ニテ備テ讀カレテ居ル

四 教具整置通則

- 第一 教師各級ヲ監督スルニ最便利ナル位置ヲ台ムベシ
- 第二 生徒ノ位置ハ其直線ニ平行ナルモノトシ又ハ方形  
ニ對シテノ三側ニ下ニ向セテ受持教員ノ目洞視スル様ニ定メ
- 第三 各級元令ニ隔高ニ錯乱ノ害ヲキラ要ス
- 第四 教具ノ整備ニ由ルニ教場ニ愈々狭キニ其益愈多ニ配

列ノ方法ニ依テ校庭ナル場處ニ多人教ヲ組シテ其  
益大ナルニキラ云フナリ

丙 分級法

一 分級ノ定義

一 目的 教授ニ便シ且進歩ヲ助ケラ多トス  
二 標準 学力及年齢  
三 定儀 上ニ示スルノ目的ノ標準ニ依リ生徒ノ類別ヲ分

二 複分法

級ト云フナリ

① 定儀

一学科或二教科毎生徒ノ学カヲ判シ等級ヲ分ツ

ヲ複分法ト云フ

② 種業

英一 右学課皆殊別ノ等級ヲ有ス

英二 教科ヲ二分シテ読書作文地理歴史ヲ申類トシ算

術和算及再應用ヲ乙類トシ習字算術西ニ丙類トス

三業中各殊別ノ等級ヲ立ツ

③ 得失

(得)

各生徒皆其学カニ恰當ニ位置ヲ有セラハテ進歩

尤速ナリ

各生徒大票ノ所長ヲ養成ス

級中一和ノ誠信ヲ欠ク

才者ハ才者ノ一級ヲ爲シ無才ハ無才ノ一級ヲ爲ス

賢ハ益賢ニシテ愚ハ益愚ナリ

長所ノ諸科速ニ卒業スル短所ノ諸課久シテ

卒業スル能ハス

④ 単分法

① 定儀

諸課皆一定ノ等級ヲ立テ其學カヲ分ツ

④得夫 級中二三ノ優等生徒アルニシテ他ノ生徒ヲ獎勵シ其

進歩ヲ補助スルノ益アリ

級中一和ニテ猶雜ノ優等ナリ

一学科ニ偏スルノ憂ナシ

此法ナル複分法反對セルニシテ更ニ其害ヲ興ケル

④標準 算算法ニ於テハ各学科ノ平均点を以テ等級ヲ定ム

此ヲ常トス

甲科ノ点ヲ以テ乙課ノ点ヲ補フ等ノ弊ヲ生セバ各

科ニ定ムル可也

④分級下進昇降係

第一 毎級生徒ノ數過少ニシテ授教カク不足ニ生じ過多

ニシテ生徒ノ學カ平均點

第二 毎級生徒ノ數ハ其學カニ反比例シ授教力正比

例ニシテ

(毎級生徒數過少ナルハ徒テ級ノ數增加シ級ヲ

差增加スルニ量ニ三人ニテ教ヘシモノモ今ハ其人數ニテ

教授スル能ハサルニシテ

優等ノモノアルハ規則外昇級スルニ可シ是レ本

人、勉強心ヲ増シ他生ノ獎勵トスルナリ

丁 課程表

製表ノ方法

曰 正則

教育令ニ載スル所ノ素ヨリ大剛領ヲ奉クルモノト爲ス之レニ

準シテ課程ヲ定メハ至当ナルベシ其初ニ掲ケル六課

(讀書、習字、算術、地理、歴史、修身)ノ如キハ如何

第一 凡ソ學ニテモ置サレバウセルノ主意ナリ又茲所講談

書ナルモノハ其儀博クシテ其中ニ素談講義作文

等ヲ含テリ故ニ表ヲ製スルハ必ズ談方作文ノ二科

ニ分ツベシ

(1) 學課ト年齢ト關係

學齡身間ヲ大別シテ四期トシ各期ニ想スベキ學子

課ヲ定ム

習字ヲ教授スル目的ニテハ筆法ヲ

教テ上ハ字記ヲ自修ナシトナリ

普通ノ注意ハ習字教授ノ事者

學下為テ目的ニ非ズ時間

甲	乙	丙	丁
七	九	十一	十三
讀書	習字	算術	地理
作文	談方	習字	談方

美術	習字	実物	地理	算術	修身	唱歌	体操
+	+	+	+	+	+	+	+
+	+	+	+	+	+	+	+
+	+	+	+	+	+	+	+
+	+	+	+	+	+	+	+
陶器の製作等	寧ろ習字ヲ廢スルニ然レテ六年	各定ナル所ニ依リ科ヲ廢スルヨリ	藝苑ニ在ル處ノ地理ノ世界ノ思想論	ヨリ以テ三ツ方位ヨリテ其校	ノ位置及都邑地圖ノ此キハ位	置部ニ當リテ藝苑人々	

② 学科ト時間トノ關係

裁縫	物理	化学	生理	博物
+	+	+	+	+
+	+	+	+	+
+	+	+	+	+
+	+	+	+	+
裁縫ノ習得ニ必要ナル時間	物理ノ習得ニ必要ナル時間	化学ノ習得ニ必要ナル時間	生理ノ習得ニ必要ナル時間	博物ノ習得ニ必要ナル時間

各科ノ値ニ從ヒ時間ヲ定ムベシ

讀書習字美術ノ三課 如キハ最モ重要ナルモノナリ故ニ從テ

其時間多キヲ要スルニ且実物課ニ智識ヲ培スルニ長科ナル



実地	習字	美術	地理	歴史	修身	算術	唱歌	書写
1	1	1	1		1	1	1	1
1	1	1	1		1	1	1	1
1	1	1	1		1	1	1	1
1	1	1	1		1	1	1	1
ノ不足ナル他科ヲ廢スヨリ	算ノ習字ヲ廢スル然レモ六年	算ノ習字ニシテ算ノ	算ノ習字ニシテ算ノ	算ノ習字ニシテ算ノ	算ノ習字ニシテ算ノ	算ノ習字ニシテ算ノ	算ノ習字ニシテ算ノ	算ノ習字ニシテ算ノ

② 学科ノ時間トノ關係

裁縫	物理	化学	生理	博物
1	1	1	1	1
1	1	1	1	1
1	1	1	1	1
1	1	1	1	1
裁縫ノ時間ヲ算入ス	算ノ時間ヲ算入ス	算ノ時間ヲ算入ス	算ノ時間ヲ算入ス	算ノ時間ヲ算入ス

各科ノ値ニ從ヒ時間ヲ定ムベシ

讀書習字美術ノ三課ノ如キハ最モ重要ナルモノナリ故ニ從テ

其時間多キヲ要スベシ且實物課ニ智識ヲ培ルニ良科ナリ

凡改之是亦自取注意スルヲ要ス

(三) 変則

(一) 変則ノ字儀最見ル女科ナリ何ナリ其地ニ適シテ教則即チ

正則ナリ故ニ只正則ニ對シテ書スモノト知ル可シ

〇就学年限

〔説〕

教育令ニ依リテ出ラ得サリ事情アルハ就学年限ニテ

月ニ迄減縮スレト此如キ学校ニ在テハ素ヨリ讀書其術習字

三科ノ故ニテ尚容易ナリ其地ニ他六等校ニハ四年ノ学校ニ在テ

從テ科目ニ減セテ得テ修身ノ科ノ如キ別ニ科ヲ置テ要スル教

師自己ニ品行スラ教導スルヲ良ス又時日生徒互授中或ニ在宅

中行テ此事ニ就テ同者ヲ爲シテ善惡ニ導ク或ニ正不良ノ

所行スル直接其令遵責セテ其令級之モテ身入令行セテ

其良ヲ先行ヲ導然ニ談話ニ且他生ト同者交ニ合ル者必正

誤ス是不良矯正ル最良法ナリ然ラズシテ若賢哲ノ善行

ヲ波シ兜徒ノ惡事ヲ語ル如キ或高尚海ヲ解テ能ハズ或ハ

解スル他人ノ事トシテ聽ク故ニ其益解サナリトス教育令

中昧罰ヲ禁ルル事甚ク謂シテキ事ナク何ナレバ教師

ハ素ヨリ是ヲ行程ノ權ナルカラズ然レテ之ヲ行フハ天

理ニ悖ルヤト云フニ然ラズ凡ソ人ニル者善惡ヲ區別スルハ皆業

人事ニ依テ知ルモノニ曰ク童父母命應ナルは故歟苦痛  
ヲ蒙始テ其アミキヤ知リ之棄ニ後テ其最貴快ニ受テ始  
ニ其善キ丁ア知ルカ之自然ノ教育モ亦皆体罰ヲ以テ懲戒ス  
則振生ノ注意セラルハ忍症病ヲ生メ奇ナリ是ヨリテ一國ノ政府  
ニ体罰アト云テ政府亦体罰而テ独リ一校ノ政府テモ体罰ナカル  
ガカラ然レモ体罰ノ理ニ合フナリトテ妄ニ使用スルハ亦弊害ヲ  
生ス例ニ本ハ真尺及テ骨ヲ折リテ誤テ脊髄ヲ損ハ  
為メ不具体トナシ死スルハ後更ニ若國ニテ不衛生徒ノ父母ト教  
師ト公事及丁ア然レ教判官常ニ理テ教師ニテテ此如

モノアルヨリ米國ニテモ体罰ヲ學校ニ用スル非トスル者  
多ク又是ト云モテアリ然レモ其非トスル論者亦只用法ニ  
テ最良ト云ハレ非トスルモノ見又故ニ体罰ヲ行ハ苦痛覺ニ  
テ最良ト云ハレ最良ト云ハレ最良ト云ハレ最良ト云ハレ最良ト云ハレ  
手掌ヲ打ツルト云ハレ最良ト云ハレ最良ト云ハレ最良ト云ハレ最良ト云ハレ  
已ニ連ルカ加ク体罰ノ行フモノナリト云モ年數ニ有テ行ハレ  
バカクテ長行フニキハ男女共テ未ダ大人ニ至ラザル間ナリ即  
男子ニ在テ音聲及女子ニ在テ月経ノ降ル及ラハ之ヲ行  
フ者蓋テ其ノ害却テ弊害ヲ生スベシ

就学年向短キ片ハ專ラ読書習字其術ヲ教授シ地理ノ  
史ノ諫書課ニ部トシ地理學諸課ハ実物ノ部トシ教授  
スル且修身ハ懇篤ニ注意スルヲ要ス

②地方ノ情況

教育ノ主眼ハ各地方ハ皆異ナルトシ且其細目ニ至テハ地方  
情況ニ從テ斟酌シテカラス

④商業ノ地

凡ノ諸件ニ注意スルニ  
筆算珠算ノ應用

記簿法

地理學中商業ニ樞要ナル部分

⑤ 商業ノ地  
商業ノ地ハ名稱性質及功用ニ從テノ要奇

④ 工業ノ地

其地方ノ産物ニ關スル知識製作  
或ハ製煉

方法化學ニ屬ス 幾何學及圖畫學ニ注意スル

⑥ 日用卑近ノ其術ハ素ヨリ授ケテ之ヲ不學ニ更ニ注意ヲ要スル及父何

トナク諸器械等今等ニハ皆其器械アリテ高尙ナル其術ニ要スル之ニ由テ容易  
ニ成得ルナリ而學ノ如キハ之ニ及シ最要ナルモノトス以テ急甲圖ノ如キ田莊ヲ



alノ如ク切斷セテ欲スルニ  
其術又ハ計量スルニ難シキ

④ ナルニ此ノ如ク曲線ヲ直キ之ニ内柱ニ貼付シテ切斷スレバ容易ク成リ得ヨク

の農業ノ地

動物植物及化学ニ注意スルニ

⑤

動物ノ部ニ牧畜ノ如キ素ヨリ要用ニテト成レ就中節虫類ノ研究緊要ナリ行トナレバ植物ヲ害スルハ概テ節虫ニ依テ之ヲ駆除スル方ヲ素ヨリ發明スル動物専門ノ者方ニ委務ナリト成レ之ヲ實施シテハ人民ナリ

然ルニ其虫ノ性質等ヲ知ラズテ其明説ヲ聽クニ之ヲ施行ス能クハ化学ノ自ラ分析

術ヲ行ハルニ至リテ其望外ニ此ノ専門ニテ善キ以テ其材料等ヲ查明セシバハ

破棄何物ナラユ知ラズテ目前ノ利益ヲ収メ能ク故ニ其説ヲ理解シ得

ベキ程ニ至リテ其虫ノ性質等ニ及シ高大ナル農具ヲ示ス等ニ大ナル利益ヲ得ル

トナレバ亦國ノ弊ハ新國ニ至リテ其身ニ及ルニ其土地ノ改良ノ廣濶ノ地ナリ

多量ノ收斂ヲ望ム是於テカ蒸氣或ハ他ノ物器ヲ具セル器ヲ用ヒテ

一日ニ數町ノ田ヲ耕シ或ハ數百俵ノ米麦ヲ獲ルセリ然ルニ日本及

獨逸ノ如キハ國曰ク人民多キカ故ニ耕耘ノ余地ナク且日本ノ如キハ其

陵ニ播種スルモノ多キヲ以テ時向ヲ減シテノ廣地ヲ耕スルニ益ナキノ

之ニテ高大ノ器械(馬車ニ装置セル外表ノ器械トモテ)用井ル能ハシキ  
政ニ專ラ化学ヲ依テ採少ノ地ヲ多量ノ採納ヲ得テ之ニ注意セズニ  
ハアルベカラズ

三 礦業地

ノ諸件ニ注意スベシ

礦物性質及功用

開鑿ノ方 法

修身及坑 法 (法律日本坑法)

説

コレト云フハ曰金銀ヲ集人心腐蝕

都テ礦業ノ地ハ人ヲ粗暴トスルナリ米國ホレニヤ、ヒチイハ世界第

一ノ礦業トシテ政、其礦夫ノ奉勅ノ如ク談話ノ際憤然ト乘テ親友

ト雖モ直ニ銃殺スト具情況此ノ如キヲ以テ最モ修身注意セズ

ハ五ルベカラズ

四 日課表

五 就業時間

六 勞一生徒ノ年齢ノ長短ニヨル

幼年生徒ハ十分ヨリ三十分長年生徒ハ四十分ヨリ

四十五分ニ至ル

第二 学課ノ種類

心思ヲ要スル学課ハ從テ長キヲ要ス

四休憩時間

生徒ノ長幼ニ関セテ必休憩時間ヲ設クシ最モ幼生ノ

休時ハ長年生ヨリ長キヲ要ス

四学科次序

心思ヲ勞スル学科ハ心ヲ鋭敏ニシテ授クニ同種

ノ教科ヲ用ニテ相読カサルヲ要ス

四教員不足ヲ補フ法

第一 二級ヲ合一ニテ教授スル

第二 学科ノ種ニヨリ複業生ニ附シテ授業セシム

第三 定時前或ハ後ニ教授スル

第四 卓上ノ科業ヲ黙学セシメ後ニ之ヲ点檢スル

第五 学科ヲ預習セシメ後ニ其習否ヲ試験スル

四管理上ノ注意

教師ハ全校ノ生徒ニ直接スルヲ要ス自ラ一級ヲ受

持テ他級ヲ看サル如キハ生徒ノ躰ニハ甚テ大害ヲ

生スルモノトス

教師、教授及監督時向、外三般ノ学校務ヲ取ルベ  
キ時ヲ設ケル

(六) 警戒

第一 新ニ学校ヲ持ツルハ先生ノ為ニ起リ以テ土地情况  
ニ適スルモノ思做シ能ク之ヲ監察スベシ

第二 新則ヲ行ハント欲スルハ旧則ト比較シ利害得

失ヲ審最ニ其利益ヲ確認セシ上始テ之ヲ實施

第三 一旦新則ヲ定ムルハ根之ヲ變更スベカス

(注意) 日課表ハ諸人ノ眼ニ有ク是ヲ掲クベシ

戊校簿

(一) 生徒経歴簿

目録

各生徒ノ姓名ヲ頭字ニ從テ之ヲ編ニ番号ヲ附シテ行  
用ニ便スル(番号ハ入校ノ序順ニ從テ此番号ヲ本簿及  
出序簿ニ記入ス)

目録例

イノ部

一 伊沢某



五 伊東某

三 梅垣某

口ノ部

二 六郷某

八ノ部

四 原某

②本簿

甲簿に入学ノ片記入スベシ

乙簿に一級卒業毎ニ記入スベシ

丙簿に退学ノ節記入スベシ

〔説〕

米國ノ或學校ニテハ左ニ示ス如キ生徒經テ本簿ヲ檢シ、  
作り一枚ハ其校ニカエ置キ他ノ一枚生徒退学ノ片附キテ  
其父兄ニ示サレムル學校ニテハ最ノ法ナリ

經テ本簿ノ例

本		番号	試験	明治	年月日	入校	明治	年月日
生年	族					現狀	学籍	



級 預科二級	級 預科二級
本科下級	本科下級
本科上級	本科上級

在学中身上之関之諸件

甲 証人	日校	理由	住處
	明治年月日		
(一) 一周未調査			
(二) 各級 出席簿			

第一 每日出席人員ハ、該日出席生徒ノ名ヲ合計スルナリ

第二 一周間平均出席人員ハ、該周間出席者ノ和ヲ受業日數ニ除キテモナリ

第三 日數ニ除キテモナリ

第四 一日以上出席人員ハ出席簿ニ依テ調査スベシ

第五 在級生徒全員ハ、席順ノ末表ニ付シ

第六 一日以上出席、各員平均受業日數ハ一周間出席日數ノ和、一日以上出席日數ニ生徒ノ名ヲ除クタルモノナリ

第七 評点及受業課ノ目ヲ此簿ニ加フルヲ可トス

四 月末調査

第一 試業試験点平均数ハ月末該験ノ総点妻平均シ

第六 與得點者生ノ名下ニ記ス

第七 生徒ノ席順ハ石点妻ノ多少ニ從ヒテ之レヲ定ム

第三 試業平均点ハ各生徒ノ平均評点數ノ和ヲ生徒妻

第四 定點ハ通例百点トス

第五 平均年齢ハ總生徒年齢ノ中數ナリ

第六 年齢及在校年數ハ經テ「簿照」ヲ記入ス

第七 各同成績ノ下ニ書スル「類」ノ妻ハ月末調査由ニ其

周ノ成績ヲ記入ス

周ノ成績ヲ記入ス

第一 一周間出蹟ノ重者ハ諸項ノ妻ハ尤法由ヲ記入ス

一月間出席總妻各同出席ノ總妻ノ和ナリ

一月間各ノ平均出席人員ハ一月間出席總數ノ和ヲ定

常日總數ニ除シタルモノナリ

一月間以上出席人員ハ出席ヲ檢シテ之ヲ記入ス

一月間五級生徒ノ數ハ右同法ヲ用ユベシ

一月間以上出席各員ノ平均定業日數ハ一月間出席

總妻ヲ其ノ日以上出席人員ノ數ニ除シタルモノナリ

第九號 受業學科用日課表有り之ヲ記入スル

(3) 朔未調査 記入ハ註月末異クハ唯一月間ヲアケシテ一朔ノ受業

日教進期成績ヲ以テスベシ

Vertical text columns on the right page, likely containing student names or course details, but the text is extremely faded and illegible.

三全校出席簿

(一) 朔未調査

通計	計	等	下或上			級	名	果	目	級	全	
			級	級	級							

朔未調査

日期未調査

三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	通計
各月出席 人数	各月出席 人数	各月出席 人数	各月出席 人数	各月出席 人数	各月出席 人数	各月出席 人数	各月出席 人数	各月出席 人数	各月出席 人数	各月出席 人数
音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数
一級主任 出席人数	一級主任 出席人数	一級主任 出席人数	一級主任 出席人数	一級主任 出席人数	一級主任 出席人数	一級主任 出席人数	一級主任 出席人数	一級主任 出席人数	一級主任 出席人数	一級主任 出席人数
音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数	音子均 出席人数
全員	全員	全員	全員	全員	全員	全員	全員	全員	全員	全員
定業科 出席人数	定業科 出席人数	定業科 出席人数	定業科 出席人数	定業科 出席人数	定業科 出席人数	定業科 出席人数	定業科 出席人数	定業科 出席人数	定業科 出席人数	定業科 出席人数

資校具<sup>改</sup> 教科用具

一 読書課用具

伊呂波図 草音図 連語読物類

読法 書籍 学校備置 置々方便益 且経済ナリ

二 算術及習字料

用具

指教器 石盤 (校ニ備置シ生徒貸渡スル然レモ)

自定ノ持チ行ク算尺 石筆 水筆 (石盤ニ乗テ)

属スベシ) 掛図

手不草紙 (通常説ニハ大字ヲ能クスル細字ニ巧ナル)

三 算尺モノナリト然レモ尺米算水等ノ説亦字能ク熟スル

一 地球儀

大字ハ自ら成ルモノナリト支那人此說也。故ニ標ニ大字ヲ習ハシムルニ益ナシ。

三地誌用具

(一) 地圖

町村ノ圖 町ノ圖 縣ノ圖 日本地圖 万国地圖 諸射圖

二 算盤

日本地圖 万国地圖 諸射圖

三 算盤用具

算盤 算盤用具

身常地球儀

經緯度ノ盛リタル素地球儀

黒塗地球儀

四 実物課

(一) 標本類

宗廟宗室其地通有之動物ヲ備フ可レ

(村落ニ於テ) 教師自ラ標本ヲ造製スルニ當リ

標本ヲ作ルニ圖ル物ノ形ノ直正小カクテ極テ薄ク皮ヲ切レテ然ル中ニ上皮ヲ高ク立テ得ルニヨリ

脚ヲ推テ反シ指ヲ骨ヲ切斷スベシ(即チ皮ニ指ヲ





所着スナリ其他處方ニ至リテニ亦ムキ反レテ

尾ノ上ノ処ニテ切ルニ尾ノ痛ナル様ニ注意セヨ

而シテ翼ノ辺曰様ナリ而シテ然レ周ニ頭ニ至ル眼

去リ腦室ヲ取り去リ管上ニテ切レシ

之ヲ永ク保維セシニ羽ノ皮ノ裏面ヘ砒石ヲ塗布リ

或ハ石炭酸ヲ用テ中ニ生スルヲ妨ケヤシ其用終リク

ル針金ヲ以テ頭ヨリ明ニ処ニテ軋回シテ尾ノ部ニ連

結シテ又脚ヨリ明ニ連結締或ハ肩麻ヲ填

ニテ切斷口ヲ縫フヤシ而其体裁枯梢ニ留リ或ハ飛云

ラシトスル凡ハ自由ニ作ルベシ之ヲ四木上ニ當テ六腹部ノ針

金ヲ脚ノ指ノ中ヨリ貫キ掌ノ中史ニ出シ之ヲ以

テ四木ニ連ヌベシ

又節虫美蜻蛉等ハ口ノ内ニホルムヲ以テ殺スベシ蜻

蛉ハ吸呼ノ口ヲ尾ノ鼻ノ内ニ吸ハス故ニコノ部ニゴロホ

ルニ當リ或ハ其ノ内ニ直ニ死ス之ヲ保ツニ當針

ニテ体ノ中心ヲ貫キ箱ノ横木ニ刺シ置クニ羽并ニ足

収縮或ハ重ル故ニ厚紙ニテ羽ニ板ト當針ヲ縫ヒ



ニテ体ノ中心ヲ貫キ箱ノ横木ニ刺シ置クニ羽并ニ足



正レケスバシ又虫ノ生スルヲヤクルカ為ノ炭酸ヲほリ

植物ノ壓葉、懸花、法方(アルカリ)ニ浸シて

信セサルサ花ニテレヒニ油ニ浸スバシ

穀物類

苔類

金石 其地言ニホルモノヲ集ムバシ 普通ニ書架ニ常用

家什文具類

(一) 図画類

a 外國産ニテ備置スヤカラサル禽獸類

b 理学ニ関スル図画類(生理天文)

諸品製造法方ノ順序ノ圖(紙製造順序

ノ圖ノ如キ磁器製造圖ノ如キ簡易ニテ大ニ

知識ヲ与フルモノナリ

地理ニ関スル老所回跡ノ写真

修身ニ関スル圖画ヲ備フベシ

物理化学

大工道具一通ヲ具ヘシムル

物理

排気鐘 天秤 寒暖計 起電器

磁鉄

化学

試管 玻璃瓶 吹管 細玻璃管

ゴム管

教師自ら他ノ器械ハキテ容易ナルモノヲ造

本國ヨリ輸入セシモノ定ムルモノモ亦ノ類ニ屬ス

物理化学

玻璃ヲ以テ三稜鏡ヲ造ル

物理化学



玻璃ヲ三枚樹脂ヲ粘着連結セシメ

而シテ之ヲ三面疊ムルニ△□之レニ上下蓋ヲ

付シ盛ルニ水ヲ以テスレバ三稜鏡ノ用ヲ為スニ足ル

又清液ヲ用テ光線熱ノ液ニ由テ鮮或ハ熱ヲ異

ニスルヲ檢スルニ最良ナリ

村落校アルヨリテテナキリ之レニ代ルニ燭火ヲ以テ

スベシ大蠟燭ノ心孔ヲ最大ニシテ下孔ヲ塞クサレ

為挿スベカクズ



物理化学

一校舎ノ部分完全ナル学校ハ玄關支度處講堂教場事務カ  
ヲ教員詰及遊園ヲ有スル

(一) 玄關及支度處  
玄關ハ只學子校ヲ檢飾セカク爲設ルニテ又生徒ノ往  
來ニ便スルヲ以テ要主トスルニテ亦下足其他ニ至ルニテ  
皆便ヲ謀リテ之ヲ設ケル



支度處ハ玄關ノ傍ニ之ヲ設ケ各生徒ニ一定ノ棚  
ヲ授ケ其物件ヲ藏ルニ供テ混雜ノ患ヲ去ルニ  
トシ

(二) 講堂

講堂ノ形ハ長方形ニシテ其高ハ生徒ノ多クニ由テ

(三) 教場

定ムルニテ總生徒半數以上ヲ容ルニシテかつ  
要スルニテ其形ハ長方形ニシテ其高ハ生徒ノ多クニ由テ  
其形講堂ノ如ク長方形ヲ可トス其大サハ勿論生徒  
ノ多寡ニ由リテ定ムルニテ通常三間ニ四間位ヲ適當ニ

(四) 遊園

土地暄燥ニテ廣闊ナル場處ヲ撰テ遊園ニ花ツバシ  
其園中ニ芝ヲ植ユルカ又ハ砂利ヲ布キ鞆鞆ノ  
地ニ運動器械ヲ備ヘ且草木ヲ植ユルカ可トス

芝、砂利ノ害ハ夏ハ雨ニ濕感ハ朝ニ雨相ニ雨路ニ  
 霈ルカ故生徒ノ滑利ハ憂アリ砂利ハ夏日  
 至ヒハ燒ガカク大ニ健康ヲ害スハモノナリ蓋シ  
 芝ヲ植ユルコトナラン

(一) 仕林書

二構造上ノ注意

(一) 光線

(1) 窓ヲ大ニシ光線ノ量ヲ多ク取ルテ而シテ各窓ハ必  
 帳ヲ備フマシ

① 窓ノ注意

日本ノ如キ窓ヲ大ニスルニ近時建築スル洋館ニ擬  
 言スル學校概シテ小窓ナリ是大ニ誤ルモノトモナラズ  
 其基原ハ英國ノ如キ寒冷國ノ便設ト似セリ故  
 至リ宣レク日本ハ如キ窓ヲ大ニシ且窓ノ多クモ近  
 来ノ建築茶室繼九尺巾三尺位ニおレタリ

(2) 光線ノ生徒ノ丸方ヨリ入り来ルヲ可トス

(3) 教場ノ壁ハ白色ヨリ寧ロ薄茶或ハ青藍色ヲ

良トス

近來米國ヲ人眼ヲ檢シ算スルニ百分中五十分

近眼ナリ高シテ其近眼ナリニシテハ学校ニ行クニ

多シ墨ト黒板ノ位置ノ不可ナリ由テ近眼ノ

多シ墨ト黒板ノ位置ノ不可ナリ由テ近眼ノ

多シ墨ト黒板ノ位置ノ不可ナリ由テ近眼ノ

(四) 空氣

新鮮ノ空氣ヲ流通スルニ注意スルニ

空氣枝オキ室ハ一日ニ<sup>時</sup>二度位室ヲ開キ室内ノ空氣ヲ

交換スルニ注意スルニ

室内ヲ暖温ナラシムルニ

暖室炉火鉢ノ不可ナリ近來俗ナリ船乗ノ暖

炉アリ(教育博物館アリ)之ハ出火ヲ燃シテ

温暖中和シテ持運自由ナリホク真ニ是レ

断言スルガニスト余モ蓋シ可ナラン

教育ノ目的ハ人間ナリ

教育ハ人オラ養成スル術ナリ教育ハ人オラ養成スル術ナリ

人ノ身体ト精神ヲ成ルニ教育ハ人オラ養成スル術ナリ

教育ハ人オラ養成スル術ナリ教育ハ人オラ養成スル術ナリ

其心カク体カクヲ美良成スルニキハ之ヲ應用スルノ才能ナクハ之ヲ養成セズ  
故ニ教育ハ人ノ心カク体カクヲ育成シ其諸カラ應用スルノ術ト云フニ  
應用ハ善惡ノ二道アルベシ之ヲ思道ニ用スルハ教育ノ本旨ニ非ス  
故ニ教育ハ人ノ心カク体カクヲ育成シ其諸カラ正道ニ應用スルノ才能ヲ  
得セムルノ術ナリ

心カク養成スルノ法ヲ大別シテ二トス  
專ラ智カラ育成スルヲ智育ト云ヒ  
專ラ情意ヲ養成スルヲ情育即徳育自爾云フモ可也  
專ラ人品ヲ高雅ニスルヲ品育ト云フ可也

体カク養成スルノ法即体育ナリ

此種々ノ教育ノ目的ヲ達スルノ法如何  
其各種ニ適スルヲ學問ナリ  
各種ノ學問ヲ以テ各種ノ教育ヲ行フノ成績如何  
各學校ノ性質如何

人ヲ教育スルモノヲ教育スルニ於テハ  
此ニ授クル処ノ各學科ニ就キ一々在ノ諸項ヲ研究スルレ

該學科ハ何等ノカヲ教養スルヤ  
其得ル処ハ何等ノ智識ナリヤ

其心カニ体ケテ其長成スルモノトシテ之ヲ應用スルノ才能ナキトシテ之ヲ長成セザルモノトシテ教育ハ人ノ心カト体ヲ育成シ其諸カラ應用スルノ術ト云フニ  
之ヲ用ハ善惡ニ直アルベシ之ヲ用道ニ用スルハ教育ノ本旨ニ非ス  
故ニ教育ハ人ノ心カト体ヲ育成シ其諸カラ正道ニ應用スルノ才能ヲ  
得セシムルノ術ナリ

心カヲ養成スルノ法ヲ大別シテ二トス  
一 專ラ智カラ育成スルヲ智育ト云ヒ  
一 專ラ情意ヲ養成スルヲ情育即精神育ト云フ  
專ラ人品ヲ高雅ニスルヲ品育ト云フ  
此種々ノ教育ノ目的ヲ達スルノ法如何ハ種々異なるニシテ  
其各種ニ適スルヲ學問ナリ故ニ學問ニ對シテ  
各種ノ學問ヲ以テ各種ノ教育ヲ行フノ成績如何  
當學校ノ性質如何  
人ヲ教育スルモノヲ教育スルニ對シテ  
此ニ授ケル処ノ各學科ニ就キ一々之ノ諸項ヲ研究スルレ  
該學科ハ何等ノカヲ教養スルヤ  
其得ル処ハ何等ノ智識ナルヤ

體カヲ養成スルノ法即體育ナリ  
此種々ノ教育ノ目的ヲ達スルノ法如何ハ種々異なるニシテ  
其各種ニ適スルヲ學問ナリ故ニ學問ニ對シテ  
各種ノ學問ヲ以テ各種ノ教育ヲ行フノ成績如何  
當學校ノ性質如何  
人ヲ教育スルモノヲ教育スルニ對シテ  
此ニ授ケル処ノ各學科ニ就キ一々之ノ諸項ヲ研究スルレ  
該學科ハ何等ノカヲ教養スルヤ  
其得ル処ハ何等ノ智識ナルヤ

応用ノ実益者

化学

智力ヲ育成ス

得ルルノ智識

物ニ準テ

複合トシテ種アリ

某物トシテ某物トヨリ成立スルコトヲ見出ス

某物ヲ製造スルニ某物トシテ某物トヨリ用ルルノ法ヲ知ル

応用ノ実益

金属ノ製練 硝子ノ製造 繪具ノ製練

薬品ノ製造 水ノ分析

物理学 智力ヲ養成ス

得ルルノ智識

道有諸力ノ儀者鮮ナク及変交スル



卷四 / 卷五

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

7